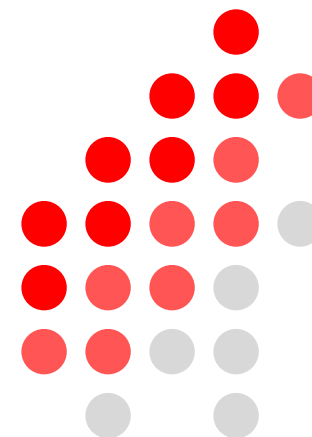
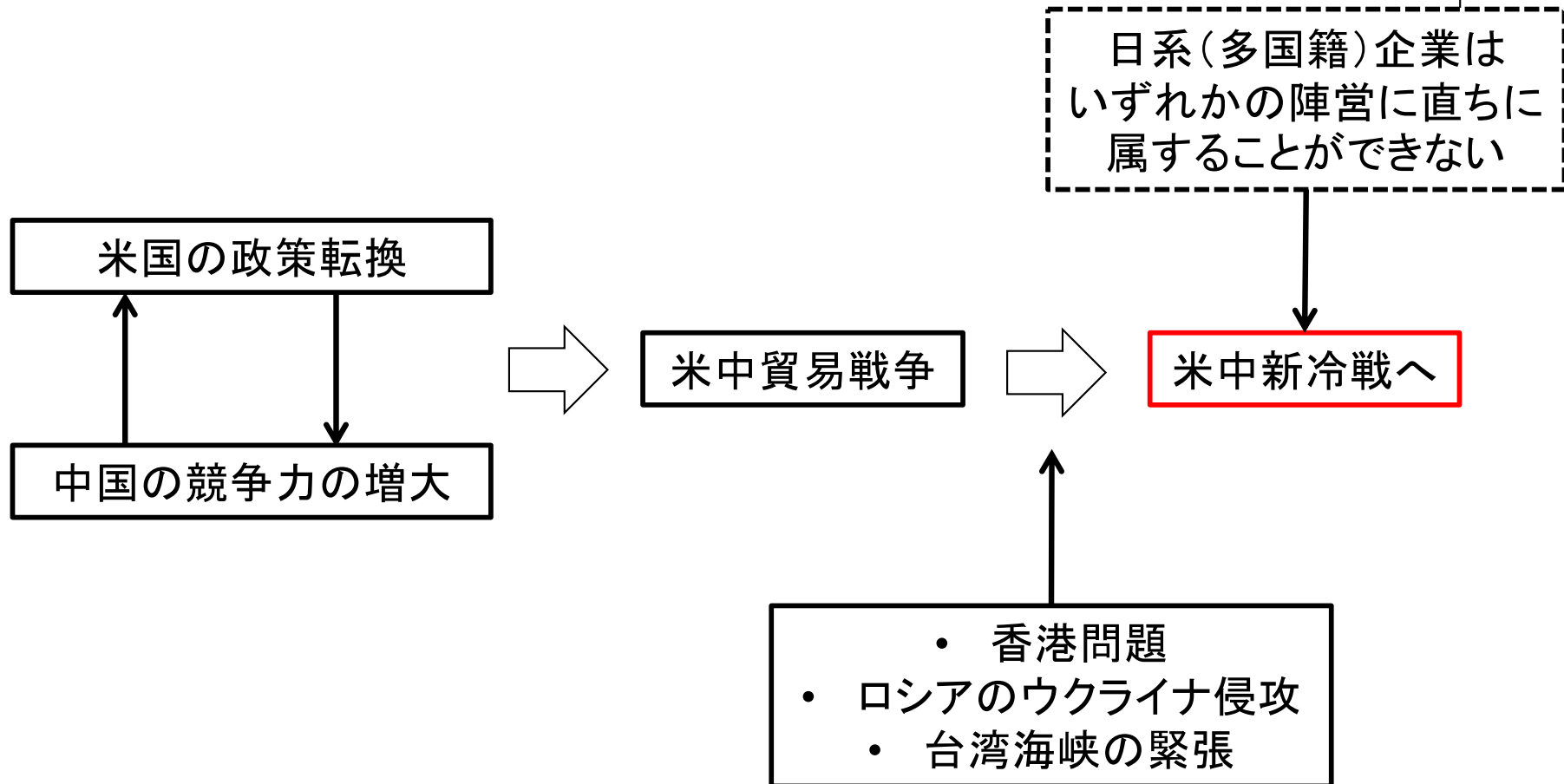
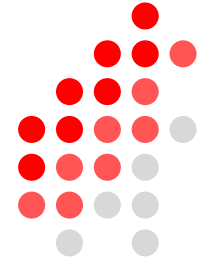


統一論題
「米中新冷戦と多国籍企業」
テーマ解題

第14回多国籍企業学会全国大会
2022年6月25日@亞細亞大学
モデレーター 臼井哲也(学習院大学)
tetsuya.usui@gakushuin.ac.jp

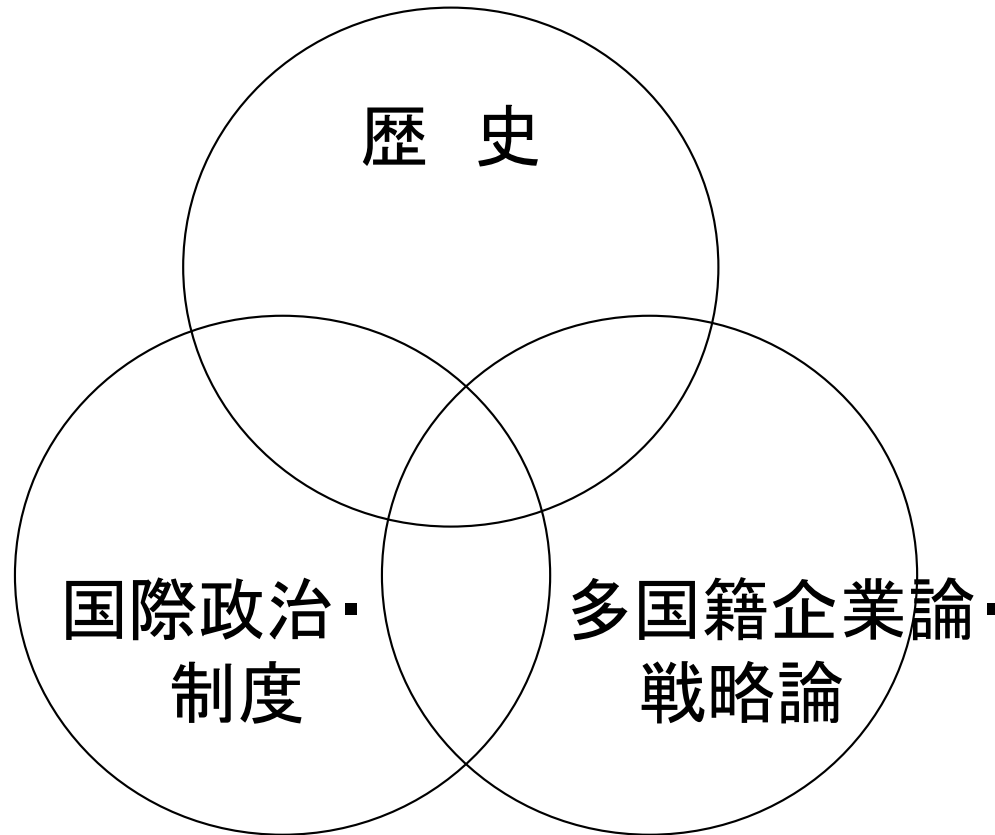


問題の構造：議論の前提

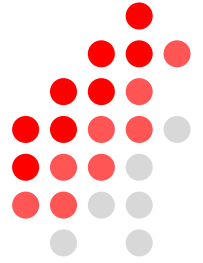


出所：岡本(2016)，佐橋(2021)，益尾(2019)，前田(2017)，野口(2021)ら
を参考に作成

我々の議論の焦点



パネラーの視点



伊田報告

グローバル研究の下降→分断と国家多国籍企業の研究の高まり

石田報告

データ空間(規制, 国際的フロー)と多国籍企業の戦略(GVCなど)

内田報告

米中それぞれの陣営が「プロパテント化」に向かっている
→知財の国際的・業際的な利活用における競争戦略の変化

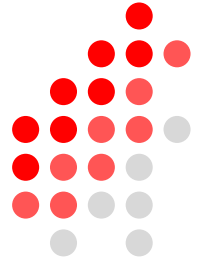
立本報告

米中対立→プラットフォーム(データ資源)経済圏の出現の可能性

川上報告

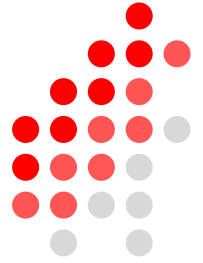
エレクトロニクス産業のGVCに参加するアジア企業への影響
→サプライチェーンのチョークポイントの戦略

大きな問い



1. 米中新冷戦時代において、(日系)多国籍企業はこの状況をいかにして戦略的に利活用できるのか(すべきなのか)。
2. どのような研究テーマが必要になりそうか(どのような多国籍企業問題の解明が学会に求められるのか)。

具体的なディスカッション・トピック



多国籍企業の主体性を念頭に、

- ① (日系)多国籍企業のGVC(GSC)はどのように変化していくのか(べきか)(配置と調整)。
- ② データや知財の管理と活用はどのようにになっていくのか(していくべきか)。
- ③ (日系)多国籍企業は制度変化(新冷戦時代のさまざま制度)へ影響を与えられるのか。どのような影響を与えられるのか(与えるべきか)。

参考文献



1. 岡本隆司(2016)『中国の論理 - 歴史から解き明かす』中公新書。
2. 佐橋亮(2021)『米中対立』中公新書。
3. 關智一(2020)『IT多国籍企業とスピルオーバー: スーパースター仮説に寄せて』浅川・伊田・臼井・内田・多国籍企業学会編著(2020)『未来の多国籍企業』263-276頁, 所収。
4. 劉永鵠(2020)『中国ICT多国籍企業の国際化戦略』浅川・伊田・臼井・内田・多国籍企業学会編著(2020)『未来の多国籍企業』277-301頁, 所収。
5. 益尾知佐子(2019)『中国の行動原理-国内潮流が決める国際関係』中公新書。
6. 野口悠紀雄(2021)『入門米中経済戦争』ダイヤモンド社。
7. 三嶋恒平(2021)「蘇州の日系企業からみる中国自動車部品産業の発展」, 植田浩史・三嶋恒平編著(2021)『中国の日系企業: 蘇州と国際産業集積』慶應義塾大学出版会, 111-253頁, 所収。
8. 前田達也(2017)「オバマ期における米国防省の対中認識の推移」『海幹校戦略研究』7号1巻, 55-75頁。
9. 安田賢憲(2020)『産業のオープン化と競争環境の変化に関する一考察』浅川・伊田・臼井・内田・多国籍企業学会編著(2020)『未来の多国籍企業』321-342頁, 所収。